

第19回 日・韓・中ジュニア交流競技会 報告書



日 時 2010年8月22日～28日
場 所 愛知県名古屋市
東山公園テニスセンター



男子監督

内藤 美明

全国高体連テニス部常任委員

愛知県名古屋市東山公園テニスセンターで行われた第19回日・韓・中ジュニア交流競技会に、男子監督として参加しました。他国の選手と試合をするということで、選手たちだけではなく、自分自身も大いに勉強をさせて頂いた1週間でもありました。

日・韓・中ジュニア交流競技会に参加するに当たり、試合会場で2泊3日の事前合宿を実施しました。男子チームのキャプテンを高田航輝（湘南工大附）に決め、また、チームとして行動するのに必要な時間の厳守・挨拶など守るべき規則を確認し、練習をスタートしました。

選手達は、インターハイ等で戦ったライバルであり、また個性豊かなメンバーであるため、チームとして機能するのか、また連戦続きで疲れが溜まっていないか不安でしたが、練習が始まると明るくのびのびとプレーし、徐々にチームとして手応えを感じ始めました。

合宿2日目に昨年インターハイ男子シングルス優勝の小野陽平（明治大学）選手に参加して頂き、精力的に指導やヒッティングをしてもらい、レベルアップに大いに役立ちました。紙面を借りて改めてお礼申し上げます。また、ダブルスをどう組むのかが課題でしたが、選手達はどの組合せにもうまく対応してくれました。

23日には他の日本選手団の選手達とも合流し、JAPANのユニフォームを渡された時には日本の代表だという意識を強くし選手達の目の色が変わりました。

1日目（24日）は韓国戦でした。シングルスNo1で出場した井上敬博（柳川）が5-7, 0-3の劣勢から大逆転で勝ち、チームに勢いをつけ、他の選手たちもその勢いで接戦を物にして5戦全勝という結果でした。2面進行だった為、キャプテンの指示のもと選手達が自発的にベンチコーチを勤めたり、大声で応援したり、まるでインターハイの団体戦に出場しているチームのようでした。また、日本開催ということで、選手達の親御さんだけでなく、全国高体連テニス部の常任委員の先生方にも応援に駆けつけて頂き、選手達の気合いのこもったプレーが繰り出しました。

2日目（25日）は中国戦でした。朝から雨が降り続いている為に室内コートで8ゲームプロセット・ノーワンデーバンテージ方式で試合が行われることになりました。この日シングルスNo1で出場した高田航輝（湘南工大附）の気迫を全面に押し出したプレーで勢いをつけ、またまた5戦全勝という結果でした。

中国選手は身長190センチの選手が2人いて、4人全員サーブがとても速くて、リターンすることがとても難しかったのですが怯むことなく前に出てブロックリターンで返球し、巧みな配球で勝利をものにしていました。

3日目（26日）は地元愛知県代表との試合でした。愛知県代表チームは全員名経大市部高校の選手ということでチームとしてとてもまとまっていました。また、地元ということで大勢の応援のもと日本代表チームは完全アウェーの試合を強いられました。シングルスNo1で出場した井上敬博（柳川）とキャプテン高田航輝（湘南工大附）の2人が2面進行で行われたコートで声を張り上げて、とても気迫のこもったプレーで大接戦をものにし、ほぼ同時に試合が終わって2勝。そして、シングルスNo3で出場した今井慎太郎（湘南工大附）のノーミスの完璧な試合で3勝目。シングルスNo4で出場した永富康太郎（大分舞鶴）の堅実なプレーで4勝目。そして、最後のダブルスも勝って15戦全勝でした。

この大会を経験することによって選手達が成長するために「チャレンジすること」「トライすること」を目標に掲げた結果が出たような気がしました。まだまだ技術的に未熟な部分も多々ありますが、先を見越したテニスをすることで大きく成長することを願っています。

男子の試合を女子が、女子の試合を男子が応援するなど日本選手団は男女とも仲が良く、試合にも真剣に取り組み、ホテルでの生活もけじめのある行動をしてくれたこともとても素晴らしい点でした。代表選手を今日まで指導して頂いた各校の先生方のご指導が素晴らしいものであることに感謝しています。

最後に、お世話になったすべての方々に感謝申し上げ、報告を終わります。



女子監督

岸 徹

全国高体連テニス部常任委員

愛知県名古屋市の東山公園テニスコートで行われた第19回日・韓・中ジュニア交流競技会に、女子監督として参加しました。

21日ホテルに集合し、これから大会終了までの簡単な打ち合わせとチームジャパンで臨む目標、チームで行動するのに必要な規則等を確認しキャプテンを吉富に決め、昨年に続く優勝に向かってスタートしました。

21日午後より23日の午前までチーム4人だけで練習をしました。大学生や実業団の選手の指導やヒーディングがない中、最初はお互い気を遣いながら練習していましたが、徐々に打ち解けリラックスした中にも、真剣な態度で練習をし大会に向けていい調整ができたように思います。また、4人だけの練習だったことが、チームワークや私達スタッフとのコミュニケーションが、とてもうまくいったような気がします。 23日午後に JAPAN のロゴ入りのユニフォームを渡され、改めて明日から戦いが始まるという、いい緊張感が生まれました。

24日初戦は韓国でした。韓国は非常に粘り強く、しかもパワーのあるショットを打つチームで、シングルスでは4人とも苦戦をしました。結果2勝2敗でシングルスは五分になりダブルス勝負になりました。ダブルスは、松尾・小林で行きましたが、各学校のシングルスN01の4人が集まっているのでダブルスは非常に不安でした。しかし、2人は非常に息のあったプレーと何より日本代表だという強い意識が、ファイナルスーパータイブレークを10-6でとり勝利をおさめました。今思うと、このダブルスで勝利したことが、今回の優勝につながった一番の要因のような気がしました。

25日は、強敵中国でしたが、なんと5-0で完勝。しかし、雨のため8ゲームノーアドバンテージの試合となりどの試合も苦戦しました。

26日は、愛知選抜でした。ある意味一番選手達からするとやりにくい緊張する相手だったと思います。しかし、自分たちは日本代表でここにたっているという自信とチームワークでこの試合も5-0と結果的には完勝でした。

この一週間4人と一緒に行動し、あらためてすばらしいテニスプレーヤーでありアスリート達だと思われ知られました。プレーもそうでしたが、普段の生活面でもしっかりと自分のコンディションを調整し、チームでの行動も何も問題もなく自覚ある行動をしてくれましたも

ただ、残念なことはこれだけすばらしい選手が各国から集まりすばらしい試合をしているのに、メディアにほとんど取り上げられず、全国の高校生のほとんどが知らされていないのはおかしいと思います。せっかくの国際的な競技会ですから、大きく取り上げてほしいと思います。

最後になりますが、準備運営をしていただいた愛知県高体連の先生方や高校生、テニス協会の方、それ以外のお世話いただいた方々のおかげですばらしい大会になりました。お礼申し上げます。

それから、この4人を指導し育ててこられた先生方あるいは指導者の方々。その指導力に頭が下がる思いです。ありがとうございました。これからも全国高体連テニス部の発展にご尽力いただけるようお願いして私の報告を終わります。



男子キャプテン

高田 航輝

湘南工科大学附属高校 3年

今回参加させていただいた日・韓・中・ジュニアはたくさんの刺激がありとてもよい経験を得ることができました。

最初は団体戦で日本を背負って戦うというプレッシャーで押し潰されそうになってしまいました。しかし、初戦から韓国と対戦することになり、チャレンジャーの気持ちで試合に入ることができ勝利しました。以前から自分の課題だった弱いメンタル面を克服するためには、いつも積極的にチャレンジしていくことが大切なのだと気付くことができました。中国戦、愛知戦でも同じ気持ちで戦い、自分のベストプレーをすることができたと思います。

どの試合でも競った場面が何回もあり、くじけそうになりましたが、ベンチやコートの外から内藤監督、メンバーのみんながアドバイスや励ましなど声を掛けてくれたおかげで競った場面を切り抜けることができました。最終的にすべての試合で勝つことができ、そして、チームで完封勝利を収められたので、すごく自信がつきました。

今回は今までやったことのなかったキャプテンをやらせてもらい、チームをまとめることの大切さを学ぶことができました。今まで自分のことばかりにしか気がいかずに周りの人にくっついて行動していることが多いので、キャプテンを任されて自分でしっかり考えて周りに指示を出すことができなかつたことにも気付かされました。これからは何事にも積極的に行動することを心掛けていきたいと思います。今回の経験は気付かされたことが多く、いろいろな面で自分に自信をつけることができました。高校最後の大会で悔いの残る内容で終わってしまったので、今回自分のベストプレーで気持ちよく試合することができ吹っ切れました。

サポートをしてくれた皆さん、内藤監督、男性選手メンバー、女子メンバーの皆さん、本当にありがとうございました。



永富 康太郎 大分舞鶴高校 3年

この度は、このような貴重な機会をえていただき、本当にありがとうございました。自分は他のメンバーと比べて、これといって大きな戦績もなく、初めて代表選手に選んでいただいたときは自分で良いのかという不安や日本代表という名に押しつぶされそうになった時もありましたが、選抜していただいた役員の方々や先生方に常に感謝の気持ちを持って、自分の力を最大限にしてプレーをしようと決意することができました。

今回、高校生のトップの人たちと一緒に練習をすることで、自分に足りないものや、これから改善しなければいけない所がたくさん見つかり、自分にとって大変プラスになりました。また、今回は日本チームで一丸となって、男女共に優勝を目指して試合に取り組み、厳しい戦いもたくさんありましたが、初日に韓国に5-0で勝つことができ、チームのみなが自分の力を発揮することができました。

外国の選手は身長が高く、とても速いサーブを打ってくるので、リターンが難しく、なかなかブレークがきず、サービスキープで戦わないといけないので、サービスの大切さを改めて感じました。

今回はみんな接線の中で戦い、その中ですべて勝っているのですかだと思い、このような素晴らしい選手と一緒に代表としてプレーすることができたので、本当にいい経験をすることができたし、自分の自身にもなりました。今回の経験はこれから自分のテニス人生の中でとても大きなものになると思うので、これから練習や生活に生かしていきたいと思います。そして、大学へ行つても、全国の選手や世界の選手と戦えるように頑張っていきたいと思います。この度はこのような貴重な大会に参加させていただき、本当にありがとうございました。



今井 慎太郎 湘南工科大学附属高校 3年

今回のこの日中韓の試合に出場しての自分の感想は、まず中国人や韓国人の性格についてです。中国人や韓国人の選手は、人それぞれだとは思いますが、今回出場していた選手たちはみんなすぐに友達になれるフレンドリーな感じがすごくあり、一緒にいてすごく楽しい気持ちにさせてくれるような人たちでした。

試合中は、すごく楽しそうに試合をしている感じが見られ、仲間の応援の言葉に答えるような言葉を行ったり、プレーをしたりするところも見られて団結力があるなと思いました。しかし試合中おされ出したり、自分の思うようにいかなかつたり、審判と言い合いになったりすると、やる気をなくしたり、くずれたりしやすい部分も見られました。

次に彼らのプレーについてです。もちろん人によってプレースタイルは違いますがほとんど共通しているなと思うのはまずサーブ力です。中国人は特に感じられたのですが、サーブのスピードが速いなと思いました。しかしサービスのいい選手はスピードだけではなく、コースの良さも重要なと今回の相手のサービスを受けてみて改めてすごく感じました。

次に彼らのプレーの共通点だと思うところは、ネットプレーです。彼らはやっぱりサービス力もあり、ストロークのパワーもあるので、ネットプレーを多く使ってくることを今回自分の試合だけでなく、ほかの人の試合を見ていても思いました。日本人はストロークで勝負してストロークでポイントを取るという人が多く見られると思います。ですが、相手のレベルが上がってくるとみんなしっかりとしたストロークをもっているため、ポイントを取るのにたくさんの体力などを使ってしまったりしてしまうと思います。もちろん相手のレベルが上がってくるとポイントをとるはとても大変になりますが、ネットプレーなどを多く使ったり色々な引き出しを持っている事によって自分が有利の立場に持ていきやすくなると思います。ですから自分ももっと色々な事にチャレンジをして自分のテニスが良い方向に持っていくようにしていきたいと今回の試合で思いました。

今回このような大会に出場させていただいて自分がこれからどういう事をしていかないといけないかなどを知る事ができました。それはテニスの面だけではなく、生活面での体調管理なども含めています。

最後にこの大会の関係者の方々、僕のことをサポートしてくれた日本チームの方々、本当にありがとうございました。



井上 敬博 柳川高校 2年

今回僕はこの日中韓ジュニア交流競技会でとてもよい経験を得ることができました。その中で一番印象に残ったのが男女アベックで史上初の優勝をすることができたことです。

僕は何ヶ月か前にメンバーに選ばれて「自分が日本代表でいいのか」と、とても不安に思っていました。しかしメンバーに選ばれたからにはずっと一生懸命練習をやってきたし、勝負に対する執念も前より上げていきました。

僕は個人戦より団体戦のほうが盛り上がってプレーができます。団体戦は個人戦と比べ背負っているものも重く、前は学校を背負っていたのが今回は日本を背負って戦うということにとてもプレッシャーを感じました。でもそんなプレッシャーを開放してくれてのびのびプレーさせてくださったのは、監督の内藤先生をはじめ、周りのみんな、サポートしてくださった方々のおかげだと思います。特に短い期間でしたが内藤先生には本当に感謝しています。応援してくださった方も本当にありがとうございました。今回僕はそのおかげでシングルス3戦ダブルス3戦全て勝つことができました。

今回の経験は絶対に自分の自信にとても強くつながったと感じています。実際、海外の選手や日本の選手と試合をしていて技術の差はあるが最後はハートだと思いました。内藤先生から教わった言葉（考え方）で「どんなに競ろうが決められようが最後の1本をとったほうの勝ちだ」というものがあります。確かにプレーしていてそうだなと思いましたし、今大会で「よし絶対諦めないぞ」という粘り強さもついたと思いました。だから、もっと上、1つ上、2つ上を目指していくために「絶対諦めなければぜんぜん何が起こるかわからない」という思いをもってこれから戦っていきたいです。

良い経験をさせていただき本当にありがとうございました。



女子キャプテン

吉富 愛子

桜山女学園高校 3年

今回、中国の選手や、韓国の選手と試合をしたり、触れ合うことができてとても楽しかったです。そして勉強になりました。

自分が試合をしたり、チームのメンバーの試合を見ていて、とても印象に残ったのは、やはり日本人に比べてパワーがあるなと思いました。サーブ1本で相手を押せるのは。すごい強みだなと思いました。2日目の中国戦では雨のため、一面進行で8ゲームプロセットのノーアドパンテージ方式に変わりました。その時に40-40になった時に相手のサービスで押されてしまってポイントが取れませんでした。そういうところから、改めてサーブの大切さを感じました。自分も、もっとトレーニングなどをして、パワーをつけて、強いサービスを打たなければいけないと思いました。そして強いサービスを打たれても、しっかり返せるようにしたいと思います。

加えて、とても印象に残ったのは、先にストレートに展開されて、攻撃されたことです。特に私が対戦した2人の選手はバックのストレートがうまくて、先にストレートに展開されて、自分の思うように自分から攻められず、苦労しました。少し浅くなったりすると、すぐにストレートに打ちこまれてしまいました。安定して深くに入るショットを打てるようにならないといけないと思いました。パッキングショットもとてもパワフルでいつものようにかまえていたら追いつけませんでした。

自分に足りないものがたくさん見つかったので、その課題をクリアできるように、これから練習していくみたいと思います。中国の選手も、韓国の選手も大事なポイントで、こっちが取りたいと思っているところで、絶対攻めてきました。そういう時こそ、先に攻めていかないとポイントが取れないなと思ったので、彼女達を見習って、大事な時こそ、自分が主導権を握って先に攻めてポイントを取れるようにしていきたいと思います。

最後に、今回の大会期間中にたくさんのスタッフの方が、大会を運営してくださっていて、とてもありがとうございました。開会式や閉会式などのアトラクションもとても素晴らしいで感激しました。このような機会を与えてもらって、たくさんの良い経験をさせてもらいました。この経験を生かして、これから、目標を高くもって頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。



松尾 楓

宮崎商業高校 3年

私は、この日・韓・中ジュニア交流競技会に日本代表として出場して貴重な経験をさせていただきました。

日本代表として自分が本当に戦えるのだろうかと思ったり、自分以外の3人に迷惑をかけないだろうかと正直不安ばかりでした。しかし、こんな大舞台でテニスができることもあまりないし、自分がやれることを思いつきりやろうと決心しこの大会に挑みました。

試合1日目は韓国でした。シングルスは相手のミスがないプレーに苦戦し負けてしまいダブルスはファイナルセットまでいき勝つことができ、2日目の中国戦ではシングルスだけ出場しパワフルな相手でしたがなんとか粘って勝つことができました。韓国戦では負けましたが自分がイメージしてた以上にやれないステージではないと思ったし、また、メンタルのタフさや技術的な部分など自分の課題が発見できました。

結果もチームジャパンが男女共に優勝することができて嬉しかったです。この大会に参加することでメンバーとも仲良くなれたし、なにより技術的な課題が見えたことが一番良かったのではないかと思います。

技術的に強く感じたのはネットプレーを強化することです。韓国や中国の選手はパワフルでベースラインでラリーするだけでは先に攻撃することがなかなかできないのでプレッシャーをかけるという意味でもネットプレーを取り入れた方がいいと思いました。そしてサーブでポイントを取ることも重要だと思います。もっと威力が高いサーブが打てたらゲームの流れが良くなると感じたからです。これらの課題を練習でクリアしていきたいです。

最後に、この大会に関わった皆さん、私達が思いつきりプレーできるようにサポートしていただきありがとうございました。そして迫田先生、岸先生1週間お世話になりました。ここで学んだことを活かしてまた頑張りたいと思います。



林 恵里奈

仁愛女子高校 3年

日・韓・中ジュニア交流会に参加させていただきありがとうございました。

初めて参加させていただいたので、とてもうれしかったです。日本での開催となって残念でしたが、その反面うれしかったです。理由は1つは、コートがオムニコートで韓国人や中国人はコートに慣れていないからです。もう1つは、3月11日に東北地方を襲った東日本大震災で被害にあった人たちに、この大会で日本が勝つことで、少しでも元気付ければいいなと思ったからです。

私たち日本チームは21日に名古屋に集合しました。みんな強い人ばかりで、正直ついていけるかとても不安でした。21日と22日は練習をしました。例年、大学生の人たちと練習をしているのですが、今回は大学生が試合と重なってしまったので、4人で練習をしました。21日は1時間ぐらいしか練習ができませんでした。22日は1日練習をしました。午前中はシングルスの練習で、2対1や形式をしました。午後はダブルスの練習をしました。ペアを組みかえながら試合をしました。

23日は午前中と午後少しだけ練習をしました。試合前日だったので、ラリーと形式をしました。その日の夜は開会式がありました。

24日は試合1日目で韓国としました。とても緊張しました。全然足がうごかなくて、自分のプレーが全く出来ず負けてしまいました。とても悔しかったです。他の人が取ってくれたので韓国に3-2で勝ちました。

25日は試合2日目で中国としました。韓国戦では、私だけが負けたので、絶対に負けたくない気持ちで試合に望みました。この日は天候が悪くて1面進行で8ゲームでした。立ち上がりが良くて、韓国戦より自分のプレーが出来たし、思いっきり出来ました。勝てたので良かったです。中国戦はダブルスも出場しました。楽しく思いっきり出来ました。中国には5-0で勝ちました。

26日は試合3日目で愛知としました。なぜか分からぬけど、とても緊張しました。攻めの気持ちがあったので良かったです。ダブルスも楽しく出来たので良かったです。この3日間で徐々に自分のプレーが出来て、最終日が一番良かったです。

この大会で思ったことは、中国人や韓国人はパワーがあって、展開が早かったです。1つ1つのショットに威力があって、先に展開されてばかりでした。自分のサーブゲームがどれだけ大切か分かりました。もっとトレーニングをして筋力をつけて、1つ1つのショットの精度を上げないといけないと思いました。たくさんの課題が見つかったので、悪かったところを練習して次に活かしていきたいです。

このような大会に参加出来たのは、家族のみんなや、毎日テニスの指導をしてくださる先生、周りの方々のおかげなので、感謝しています。こんなに貴重な経験はなかなか出来ないので、無駄にならないようにしたいです。約1週間ありがとうございました。



小林 夏実 秀明八千代高校 2年

まずははじめに、日・韓・中ジュニア競技交流会に参加させていただき、ありがとうございました。今まで、日本のメンバーに選ばれたとき、とても嬉しかったのですが、自分が日本代表でいいのかという不安もありました。

始めの3日間は、練習でした。そこでは、メンバーのみんなとの仲も深めることができたし、とても楽しくテニスすることができました。

試合初日は、韓国との対戦でした。正直、とても緊張しました。自分が負けて迷惑をかけてはいけないと、試合前に考えたりしていました。やはり、試合の出だしは、とても硬くなってしまい、少しミスが目立ちました。しかし少しずつ慣れてきて、後半は自分らしいプレーができたと思います。初戦を勝てたことで、少し気持ちが楽になりました。シングルスが2-2になり、ダブルスにかかりました。自分は、ダブルスには自信がなく、ペアの松尾さんには、迷惑をかけてしまうかもしれないという思いと、勝てるかどうかの不安で押しつぶされそうでした。試合は、ファイナルのスーパータイブレークで勝つことができました。ファイナルセットは、とても緊張しました。でも、最後は、自分達の強気でなんとか勝ちました。

2日目は、中国との対戦でした。私の相手は180cmくらいの身長でとても大きくて、驚きました。初日にその人の試合を見て、サーブが速すぎるという印象でしたが、まさか自分がそのサーブを受けることになるとは思わず、恐かったです。でも、始めの3日間の練習の中で、外人は、女子でもサーブは速いということで、男子のサーブを受ける練習をしました。その練習が活かされて、速いサーブに反応することができました。この日は雨で8ゲームのノーアドでした。ノーアドのリターンゲームは、本当に緊張しました。タイブレークで勝つことができましたが、納得できる内容ではありませんでした。

最終日は、愛知との対戦でした。この試合は、勝ちましたが、本当に課題が残る試合になってしまいましたが、でも、私は全勝して、日本チームの優勝に貢献できたので、よかったです。

最後にこの大会に協力してくださった全ての方に感謝したいです。この経験を活かして、これからも頑張りたいと思います。

ありがとうございました。